

まえがき

2019年5月、須磨区老人クラブ連合会の日帰りバス旅行の帰路。うとうと寝入って目覚めると、車窓は緑があふれ街並みも整然としている。「綺麗な町やなあ。ここはどこやろ」と車外をしばらくながめていると、建物、通りに見覚えがある。「名谷や、もう帰ってきている」と気づいた。座席の位置が高く窓も大きいので、見慣れた風景も普段の目線とはまるで違って見えた。姫路から須磨ニュータウンに移り住んで40年……。人生で最も長く住む名谷のまちはこんなにも美しかったのだ。

リタイアを機に、花谷地域の皆さんに教えていただき、花谷ふれあいのまちづくり協議会（以下、ふれまち協議会）、花谷地区民生委員・児童委員協議会、中落合シニアクラブの一員として、各地域団体の福祉・交流活動にかかわらせてもらっている。

おかげで、花谷地域福祉センター、落合児童館、花谷小学校、東落合中学校等にかかわるボランティアの方々や須磨区役所、同区社会福祉協議会、同区老人クラブ連合会等の知人も増え、花谷地域への思いは増すばかりである。

わが国の少子高齢化は、私たちの住む地下鉄名谷駅東部の花谷地域においても間違いなく進行している。花谷地域の人口と年齢別構成を1990年10月と2019年1月で比較すると、30年間で人口は約13%減少し、0歳から14歳までの子どもは約42%減少しているのに対して、65歳以上の高齢者は2倍以上に増加している。次代を担う子どもたちに花谷地域のまちづくりを託すためには、今生活している私たちが花谷地域の魅力や現状を正しく把握し、その強みや課題を共有して地域活動を継続させたい。

こうした中で、花谷地域で現在、活動を行っている方たちが加齢とともに体力、気力が衰えることはやむをえないが、活動リーダーが亡くなられたり、病気になるれたりした途端に活動が停滞することは看過できない。

継続的な地域活動には協力者の確保と人材養成が欠かせない。とりわけシニア層などに地域デビューを促すことは喫緊の課題で、人材確保は単に題目を唱えるだけでは進まない。このため、これまでに次の取り組みで協力を呼びかけてきた

- ・ボランティアの活動内容と毎土曜日午後の相談対応を盛り込んだ花谷ふれまち協議会独自のポスター作成
- ・須磨区役所の「花谷小学校区地域の活動」（2017年3月）や須磨区地域活性化アドバイザーの「花谷ふれまち協議会の地域活動ボランティア

- ア一覧」(2019年11月)の作成に協力し、配布、閲覧
- ・花谷地域の全世帯に配布する広報紙「ふれあい花谷」「ひのみやぐら」やホームページ「ふれあい花谷」での情報発信、ふれあい喫茶など催しのポスター、チラシの配布
- ・定例会、総会など各種会議での呼びかけ

本書は、これらに加えて、地域活動で体験した楽しさ、喜び、驚きや発見の一端の紹介を試みたものである。第Ⅰ部は子どもたち、第Ⅱ部は高齢者の仲間、第Ⅲ部は花谷地域を中心とした須磨界隈かいわいの人びとや街、第Ⅳ部はそのほかの著作を中心にとまとめている。

多くの方々の地域活動への関心が深まり、協力者が増加し、花谷地域がより魅力的な町になることを願っている。

2021年6月

坂本 一昭

まえがき

目次

第Ⅰ部「北斗七星や！」

冬の夜回り……………	14
昔の暮らし……………	15
1年生になったら……………	16
子どもマッサージ……………	17
子育て支援……………	18
森のコンサート……………	18
節分豆まき……………	19
通学路で……………	20
教室でアート……………	20
ヨーヨー釣り……………	21
棒引き……………	22
質問次々……………	23
握手……………	23

喜びのことは	24
初めてのトマト	25
通報訓練	26
入学式	27
トライやる発表会	28
卒業式	29
ハイタッチ	29
靴の泥落とし	30
三つの約束	30
ヒマワリ	31
ホテイアオイの花	32
「こんな時だから」	33
第II部 「男性ができることは？」	
モットーは楽しく	36
弥生3月	36
団地の仲間	40
「将棋を覚えたい」	40
3クラブ交流会	41
集合住宅で老人クラブを立ち上げ	42
鐘の音色	44
「お互いに」	45
30年前の写真	45
街頭募金	46
旧国境に立って	47
クリーン作戦	48
美しい所作	49
「男性ができることは？」	50
結婚式場	51
真っ赤！	52
クマゼミ	53
輪 唱	54
神戸八社巡り	55
「自分のことは自分で」	56
ラジオ体操	57
ひまわり収集	58
会員の助け合い	59
新型コロナに負けない！	60

美山かやぶきの里	61
茶話会に参加を！	62
ポスターで助け合い事業の話し合いを！	63
第Ⅲ部「いいから！」	
葉桜期	66
須磨で石炭採掘	66
懐かしい市電	67
夏のコンサート	68
蓮 <small>はす</small> 酒	68
土用の丑の日	69
防災訓練	70
ハンモック	70
バレンタインデー	71
妊婦疑似体験	72
一足早く	72
地域デビュー	73
須磨再発見(1)	75
須磨再発見(2)	76
富有柿	77
言葉ひとつで	78
遺品整理	79
地域活動の課題	80
「いっからー」	82
ベンチ	83
好きな鍋	83
地域活動への誘い	84
回想カルタ	85
ばい捨て禁止	86
『長田今昔物語』	87
ふれまち協議会	88
夏祭り	89
長田の歴史、震災、産業を知る	90
新生・長田の息吹を訪ねる	91
女性合唱団	92
住む地域の歴史	93
新開地・喜楽館	95
コーラス発表会	96

告白	115
笹団子	116
月曜の朝	116
ルワンダ料理	117
同窓会	118
神戸の映画	118
若葉	119
市川雷蔵	120
甥の声	120
妻の実家	121
集中豪雨浸水	122
同級生	123
藤原ていさん	124
オルゴール	125
スポーツ吹き矢	125
挨拶が一番	127
花火	127
「幼稚園に入れば」	128
お手本	129

取材と記事	112
床発電	112
落花生	113
朝ドラ	114
第Ⅳ部 「エノケンみたいや」	
拍子木	109
ポインセチア	108
北須磨の見どころ	107
夕日	106
海を渡る蝶	105
在宅勤務で地元を	104
コロナ禍における地域団体の情報共有	103
山頂の花	102
39年前の記憶	101
一件落着	100
ウォーキングのマナー	99
珪化木	98
自主防災組織の整備	97

第I部

「北斗七星や！」



子育て広場 ぱんだのぱんちゃん

あとがき	158
資料Ⅱ 花谷地域の基礎データ	151
資料Ⅰ 花谷ふれまち協議会の歩み	142
〇先輩へ	139
信州リング	138
あるある	138
先輩からのメール	137
庭の手入れ	136
「力いっぱい生き抜く」	135
『蒼氓』	134
綿づくり	133
「エノケンみたいや」	132
オーロラ	131
ヒガンバナ	130

冬の夜回り

「うわー、あれは北斗七星や」。

先頭の子どもたちが叫んで指さす東の冬空を見上げた。団地の外灯で結構明るい空だが、目をこらすと確かにひしやくの形の星座が輝いていた。

ふれまち協議会が年末に行う恒例の防災・防犯パトロールに初参加した時のことだ。

ハンドマイクを手にした先頭の子どもたちが「火の用心！」「たばこのポイ捨てやめましよう！」などと声を張り上げ、拍子木を打つ。

一呼吸あつて後続の子どもと大人が大声で復唱する。

五十数年ぶりの夜回りは、寒風に身を縮めて皆に声を合やすことだけに気を取られた。

しかし、子どもたちははっきり冬の夜空を観察していた。体は冷えたが、久しぶりの星空にすがすがしい気持ちになった。

〔「花時計」2014年1月〕

* 夜回りは、リタイア後「さて、これからの人生をどう暮らすか」と思案するなかで、ふれまち協議会の一員として年末の防災・防犯パトロールに参加した。

小学5、6年生のころ以来の手探りの夜回りは思いがけない発見があり、加えて、毎日新聞の「花時計」欄に初投稿が掲載されたこともあって思い出深い地域デビューとなった。

昔の暮らし

2月上旬に今年も小学校に出かけた。ふれまち協議会の一員として、3年生に「昔の暮らし」について90分間話すためだ。

五、六十年前の田舎と都会の家の造り、飲料水、食事、風呂、洗濯、トイレのほか、小学校、給食、紙幣、買物、乗り物、遊びなどを、メンバー10人が3教室で手作りの紙芝居と写真で解説した。

数日後、担当クラスの全児童26人から礼状をもらった。

その一つに「むかしのくらしは一日くらすのにもくろうがあるけれど、今まで生きてきた人たちはくろうをのりこえてきたので、その人たちに大きなはく手をとどけたい」と書かれていた。

田舎や都会で暮らす人々の、今と比べると貧しい生活の不便や工夫を理解し、書いてくれた言葉は、心を通わせるに十分な温かさがあつた。

〔「花時計」2014年2月〕

* 六十数年前、幼稚園のない佐用郡の上月から姫路に転居して入学した小学生のころを思い出しながら話した。その後、「これからの説明は質問を考えながら聞いてよ」と知らせて「これから質問の時間ですよ」と告げた。

しかし、数秒間静寂。誰からも手が挙がらない。



子どもマッサージ

1年生になったら

「去年は質問がたくさんあったよ」と質問を促すと、男児から「わらぶきの家は今もあるのか」の質問を皮切りに、クラスの児童が次々と質問してきた。

4月上旬に地域団体の一員として花谷小学校の入学式に出席した。

会場体育館の壁面には折り紙の桜が飾られ、童謡「チューリップ」などのメロデーが流れるなか、舞台下手から6年生に手を引かれた1年生53人が登壇。6年生がかざす造花で飾ったアーチをくぐり抜け緊張の面持ちで着席した。

校長先生は挨拶のことばを短く述べると、「1年生になったら」をアカペラで歌い始めた。良く通る歌声が体育館に響きわたった。

歌い終わると「友だち何人できるだったかな」と問いかけた。子どもたちは表情をなごませ「百人」と返した。校長は「そうだね。皆さんも百人以上の友だちを作ってください」と呼びかけた。歌で友だちづくりを訴えた校長先生の挨拶は、子どもたちはもちろん出席者の心にも響くものだった。

〔花時計〕2014年4月

* アカペラで美声を披露した校長は、地域の人びとに小学校の名前にふさわしい花いっぱい为学校づくりへの協力を熱く訴えた。毎週木曜日の花づくりボランティアが終わると、「予定がなければ」と校長室に招き入れて、学校の様子を話してくれた。

子どもマッサージ

一人暮らし高齢者が対象の食事会の受付、配膳などのボランティアをしている。

8月のメニューは、さわらの龍田揚げ、冬瓜とエビの葛煮で、食後の催しは、児童館指導員から教わった子どもたちによるダンス披露と高齢希望者へのマッサージだ。

マッサージ担当の小学3、4年生は、まず自分の名前を名乗り、「お名前は」「痛いところはないですか」と尋ねる。次に、背中を優しくとやや強くの二つのもみ方でマッサージをして、「どちらがよいですか」と尋ねて希望に応じる。頭皮をマッサージする時も同様に希望を聞く。

終了後、マッサージを受けた女性が「子どもの手は柔らかく温かくて心地良い。息子が幼いころにマッサージしてくれたことを思い出して涙がこぼれた」と、子どもたちに伝えた。

指導員にも感謝の言葉をかけた。指導員は笑顔で応えた。

(2014年8月)

子育て支援

子育て支援イベント「すまっ子フェスタ」にボランティア・スタッフとして参加した。

この催しは、親子が歌に合わせて手作りマラカスを鳴らすなどして楽しく過ごしてもらおうもの。私の担当は、須磨区のマスコット・キャラクター「すまぼう」の介添え。

大きな着ぐるみの中からは足元付近が見えないので幼児にぶつからないように目を配る。「すまぼうだよ、握手しようか」と声をかけても、喜んですぐに手を伸ばす子は少ない。「大丈夫だよ」と促すとやっとおそるおそる手を伸ばすが、親の手を握ったまま後ずさりする子もいる。

一方、お母さんは「かわいいね、いっしょに写真を撮ろうか。シャッター押してもらえますか」とスマホを差し出す。子育ての苦労をひと時忘れ、最も楽しんだのは保護者のようにも思えた。

(2014年11月)

森のコンサート

毎年楽しみにしていることがある。名谷の西方、神戸学園都市にある高塚山まで運動を兼ねて徒歩で出かける。高塚山を愛する会が秋に開く森のコンサートを聞くためだ。

木々に囲まれた山頂の中央低地がステージで、観客はすり鉢状の斜面に置かれた板に腰かけてステージを見下ろして聴く。

今年11月23日の演奏は須磨翔風高校吹奏楽部1、2年生23人。

メンバーが交代で行う曲目の紹介は初々しい。「星条旗よ永遠なれ」「情熱大陸」の演奏を終えたところで、「ホルンは管を伸ばすと3・7倍にもなる」「高音域を担当するのがフルート」「最も低音域を担当するのがチューバ」などと8つの楽器とメンバーを紹介。

4曲目「GUTS！」はダンスを交えての演奏。

紅葉が木漏れ日に光りながらひらひらと数枚舞い落ちた。しあわせってこんな時なのだろうと思った。アンコール曲「あまちゃん」を含めて8曲の懸命な演奏へのお礼は拍手しかない力を込めた。

(2014年11月)

節分豆まき

子どもたちが鬼に向かって無言で殻つきの落花生を投げつけた。ピッチャーのように投げずる子もいる。しあわせの村の豆まきは、炒いたった大豆でなく落花生で邪気を追い払い福を呼び込む。職員が子どもたちに「鬼は外、福は内と言って豆をまいてね」と教える。親や祖父母らにも落花生が配られた。大人はさすがに足元にそろりと投げた。

「豆まきはここまで。これから鬼といっしょに写真を撮りましょう」のアナウンスとともに、鬼が子どもたちを手招きした。鬼に抱きかかえられてピースのサインをしたり、鬼の頭に落花生をのせて喜んだりする子もいる。落花生の殻をむき薄皮をとったピーナッツを口にして「おいしい」と笑顔を見せる子もいた。

(2015年2月)

通学路で

今年2月に集合住宅の住民で結成した老人クラブで、小学生下校時の見守りをすることにした。「今の子どもたちは、知らない人に声をかけられても返事をしないよう教えられている」と聞くし、一方で「話しかけたのに子どもが返事をしなかった」と立腹した人の話も聞いた。不安な気持ちで4人が通学路に立ったのだが――。

子どもたちに「今日から老人クラブが見守りを始めた。よろしく」と声をかけた。

一人の女の子が「昔の暮らしの話で学校に来てくれた人？」と尋ねてきた。

「そう、3年生に紙芝居で説明している」と答えると「やっぱり」と言い、ほかの子どもたちも「そうか」と笑顔を返してくれた。

クラブの見守りは数日のうちに皆知つてくれるだろう。まさに案ずるより産むがやすしだ。

〔花時計〕2015年4月

教室でアート

毎週、小学校で花づくりボランティアをしている。作業が終わるころ、校長から「児童たちの造形作品を見てほしい」と言われ、校長の案内で見回った。

小学校はまるで美術館のようだった。廊下いっぱい描かれたのはレールや家、花など。近

くにいた児童に「どの絵を描いたの」と尋ねると、「この迷路」と少し得意げに教えてくれた。教室には新聞紙で隠れ家が作られ、床から1・3メートルほどの高さに張ったテープが風に揺れている。

体育館の床面はカラフルなポスターカラーで、その2階ガラス窓はステンドグラス。図書室、玄関も紙工作で飾られていた。新聞紙の隠れ家は、子どもたちのところに段ボールで作った基地遊びを思い出させる。

小学校を異空間に変身させた作品群に、除草作業の疲れも吹っ飛んだ。

〔花時計〕2015年7月

ヨーヨー釣り

地域の夏祭りでヨーヨー釣りを担当した。

大きな注射器のようなポンプで風船に水と空気を入れてふくらませて水に浮かせる。

ヨーヨーをこよりにつけた金具で釣り上げるのは、幼児にはかなり難しい。ヨーヨーが水で重さを増しているのと、こよりが水に濡れて弱くなるからだ。

1個も釣れなかった子どもが、ふやけたこよりのへばりついた金具を悲しそうに無言で差し



スーパーボールすくい

出した。「これほどがんばったのに釣れなかった」と言いたそうだ。
 そんな子に「好きなのを1個あげるよ」と言うと、今度は色柄選びに夢中である。
 いくつになっても、この一途さを見習いたい。
 (2015年8月)

棒引き

小学校運動会の3年生棒引きは、1組3人ずつの紅白11組が競う。眼前の組は男子1人女子2人で、女子は両組の体格がほぼ同じだが、赤組男子は白に比べ身長、体重ともに勝っている。ピストルの号砲とともに引き合いを開始。最初、赤組が自陣地に4、5メートルまで引き寄せたが白組も踏ん張って中央まで戻して、互いに譲らない。6人のうち1人でも尻餅をつく先生がそのつどストップをかける。

拮抗状態が30秒くらい続いて、白が渾身の力を合わせて引き寄せると、赤はあっけなく負けてしまった。

赤の敗因は男子の腰高とあきらめのためと思えた。2回戦は、その男子が腰高を修正して粘り強く引つ張り続け赤組が勝った。見学の私も全身の力を込めていた。

(2015年10月)

* 息子や娘の通学時以来25年ぶりに運動会を見学。19種目のうち12種目は紅白に分かれて得点種目を競い合う。

質問次々

2月上旬にまちづくり協議会メンバーの一員として小学校に出かけた。

「昔の暮らし」の授業をするためだ。2時間はまたたく間に過ぎた。60年ほど前、幼稚園のない田舎から転居して入学した小学生のころを思い出しながら、紙芝居や資料を使って田舎と都市の住まいや生活道具、学校、遊び、乗り物、買物、お札について話した。

「わらぶきの家は今もあるのか」の質問を皮切りに、小学3年生のクラスの児童が次々と質問してきた。34人クラスの児童の10人以上。事前に副読本で学び、翌日に市埋蔵文化財センター企画展「昭和のくらし・昔のくらし」の見学を控えていたとはいえ熱心なものだ。授業の間の休み時間にも何人かが資料について尋ねてきた。

小学生のころ引っ込み思案だった私との違いに驚いた。
 (「花時計」2016年2月)

握手

その手はやわらかで温かかった。

寒さも和らいだ午後、小学校の下校見守りでのこと。老人クラブの男女メンバー6、7人が、子どもたちの見守りを終えようかという時だった。一人の男児が私たちの傍に立った。私が「待ち合わせ？」と尋ねると、きちんと「はい、友だちを待っています」と返事した。「何年生？」

の問いにも「4年生です」と目を合わせて答えた。

この様子を見ていたメンバーの一人が「握手しようか」と言うと、躊躇なく「はい」と手を伸ばした。「ほかの人とも握手したら」の声に、全員と笑顔で握手を交わした。

おじいさん、おばあさんに突然に握手を求められ、嫌がりもせず笑顔で応じてくれた君に「ありがとう」と言いたい。

(2016年3月)

喜びのいさば

81人の卒業生が小学校体育館の階段ステージに並んだ。全員が一斉に立ち位置を変えて私たちの方を向いた。

その代表が「地域の皆様」と張りのある声を発した。次に「日頃見守りや花づくりをしていただいて、ありがとうございます。きれいな花に癒されました」とお礼のことばを述べ、この後全員が「ありがとうございます」と声を合わせた。

下校見守りは三つの老人クラブが合同で、花づくりは私たちの老人クラブが中心になって、いずれも1年あまり活動している。

式次第で「喜びのことば」があるのは分かっていたが、それが、地域の人々、教職員、保護者の順とは想定外だった。いきなりの私たちへのお礼のことばに胸が熱くなった。誰からの謝辞よりも記憶に残るに違いない。

〔花時計〕2016年4月〕

初めてのトマト

ポーチユラカ、ベゴニア、サルビア、ペチュニアなどが色鮮やかに咲き誇る小学校花壇では、この時期は汗をぬぐいながら雑草取りに追われる。

1学期最後の花づくりボランティアの日、5、6年生が学校農園で育てたトマトを3個プレゼントしてくれた。

1個は食べ慣れた生食用のトマト。残り2個は校長が「リコピンを多く含み、生で食べるよりジュースにして飲む、ケチャップにして食べるのがお勧め」と説明したトマトで、手に取ると小ぶりで赤みが強く皮も厚い。

早速昼食で、初めて食べる後者のトマトを生と加熱で食べ比べてみた。生で食べると、肉厚で歯ごたえはあるものの甘味が少ないように思えたが、それを加熱して食べると、確かにうま味が増した。

(2016年7月)

* 花いっぱいの小学校をめざす花づくりプロジェクトに賛同し、夏休みと年末、年始を除く毎週木曜日10時から11時までボランティア活動に参加している。この日、5、6年生の男女十数人から日頃の花の世話へのお礼のことばがあつて、学校農園で育てたトマトのプレゼントがあつた。

通報訓練

1月17日、小学6年生防災学習の通報訓練に地域団体の一員として協力した。私の役割は「友達が海でおぼれて意識なし」「家のごみ箱から炎」などのイラストのパネルを

児童に見せ、場面と状況を説明する。児童はこれを受けて電話器で119番通報するのだ。消防署員の「火事か、救急か」の問いかけには即答するが、「場所は、性別は、年齢は、付近に大人はいるか」には、場面説明に困惑してしばらく沈黙のままの子もいた。

終了後に代表して修了認定証を受け取った児童が「消火訓練、煙体験、担架活用に比べて、パネルを見てすぐに状況を説明する通報訓練が一番難しかった。すぐ言葉が出てこないで頭が真っ白になった」と答えた。

確かに、こうした場に直面すると大人も気が動転するだろう。

的確な通報には、自宅の位置説明を電話器の傍に書いておくなど、日頃の備えの大切さを痛感した。

(2017年1月)



花谷小学校 防災学習 (JICA研修生も参加)

入学式

地域団体の一員として小学校の入学式に出席した。

新入生71人は6年生に手を引かれて上手と下手からステージに立ち、階段を下りて席に座る。

6年生は1年生を隣の降壇に合わすよう気遣い、座席まで優しく誘導する。

校長の挨拶に続いて、担任の先生の紹介。「わかりましたか」の言葉に、1人の1年生が「はい！」と大声で答えた。つられるようにバラバラに「はい」と答える1年生。

これには緊張感があふれていた体育館内が一気になごんだ。

着任早々の新校長は式開始前に「私も緊張しています。6年生のお迎えの歌はすばらしいですよ」と校長室で挨拶した。

人生の節目になる厳粛な入学式だからこそ皆が緊張感を持ったに違いない。

(2017年4月)

* この年の新入生は71人で3クラス。「(35人学級のため)人数が少なくなると2クラスになるので、直前までハラハラした」と校長が開始前に説明した。

1年生の手を引く6年生は、どの子も大人びて見えた。6年生の「お迎えのことばと歌」は「ドキドキドン1年生」と「校歌」。児童の歌唱力に驚いた。

トライやる発表会

地域の中学2年生の5日間職場体験（トライやる・ウィーク）作文の発表会に参加した。

「事業所に出かけるのは嫌という気持ちもあったが、職員やお客さんへの挨拶で不安が解消した。」「仕事はお金を得るためと考えていたが、相手の方が喜ぶ顔を見ると、仕事は単にお金のためでなく自分を成長させるものと思えた。」「仕事には外側や表から見ただけではわからない内側や裏を支えている人々がいることを知った。」「消極的だった今までの自分は、欠けている積極性を身につけなくてはとの思いを強くした」。

柔軟な思考力とみずみずしい感性を持つ中学2年生の職場体験発表は、年齢を重ね硬直しがちな頭を解きほぐす一時間だった。



トライやる生（食事会盛り付け）

（2017年12月）

* 2年生全員が体験作文を書き、そのうちの6人（男子2人、女子4人）が12月15日に体育館で発表した。発表者が壇上でスピーチ冒頭箇所のマイク・リハーサルにも立ち会い、緊張感が伝わってきた。その後の本番は、校長の挨拶に始まり、6人の生徒は2年生全員と教員のほかに保護者約10人、受け入れの当ふれまち協議会等の受け入

れ事業所の前で堂々とした発表だった。

卒業式

小学校卒業式に地域団体の一員として参列した。

卒業生へのはなむけのことばで校長が「保護者の皆さんにお願いがあります。式終了後、子どもたちが保護者席を通り抜けて退場する際にお辞儀をするので、その時は子どもたちの顔をしっかりと見てあげてください」と挨拶した。退場が始まり来賓席から体を保護者席に向けた。

子どもたちは一人一人きちんと立ち止まり深々と頭を下げていた。

成長したわが子への想いがかけめぐるのだろう。自分の子どもが傍に来る前から目をうるませる夫婦もいた。その夫婦は子どもが目前に立つと、顔をあげて目を合わせた。

ことばをかけなくとも親子の心が通じあった瞬間だ。

見ている私の胸も熱くなった。

（「花時計」2018年4月）

ハイタツチ

ボランティア活動からの帰路、誰かが背後から腰に触れた。驚いて振り返ると、少年が優しくいままさしで無言でハイタツチを求めてきた。名前を思い出せないまま少年と掌を合わせた。探るように「何年生になったのかな？」と尋ねた。「4年生」との答えで、やっと誰か分かつ

た。「I君やね。小学校で昔の暮らしを聞いてくれたんや。去年の暮れには君のお父さんや妹さんらといっしょに夜回りをしたね」と言うと、ほほえみながら大きくうなずいた。

この様子をながめていた少年の友だち4、5人も、「坂本さんや」と声をかけてくれた。

「皆、夕方やから気をつけて帰りよ」と手を振っての別れは、この日の疲れを吹き飛ばすがすがしさだった。

〔花時計〕2018年6月〕

靴の泥落とし

小学校花壇でのマリーゴールドなどの花がら摘み、除草作業を終えると、運動靴は前日の降雨のため泥だらけになった。

花づくりボランティアを終えて自宅が同方向の3人の帰路、女性が立ち止まって、私たち2人に「今日みたいに靴が泥で汚れると私はいつもここに入って泥を落とす」と言って、道路の側溝を指さした。溝は幅30センチ、深さ40センチほどで緩やかな下り勾配を水が流れ続けている。

数十年前に妻の実家で田植えを終えて、履物や空になった稲苗箱の泥を水路で洗い流していたことを思い出した。早速に彼女を見習って側溝の水で運動靴の泥を落した。(2018年6月)

三つの約束

小学校の入学式は6年生に手を引かれた1年生が会場の体育館に着席して始まった。

子どもたちの緊張の面持ちに地域団体の一員として参列する私の気持ちも引き締まる。

校長は会場をなごませるようににこやかに「三つの約束をしてください」と挨拶を始めた。

「自分やまわりの人の命を大切にしましょう」。

「二つ目は気持ちのよい挨拶をしましょう。朝は『おはよう』、何かをしてもらえば『ありがとう』、悪いことをすれば『ごめんなさい』と言いましょう」。

「三つ目は人の気持ちのわかるやさしい人になりましょう」。

「私自身の日々を戒めることばにしたいと思った」。

(2019年4月)

* 1年生は52人で、4月9日に1人欠席の51人出席で入学式が行われた。

小学校では花づくりや下校見守り、1月17日の6年生の防災学習、1月下旬に3年生に「昔のくらし」、1年生に「昔のあそび」の指導をさせてもらっている。

そんな縁で、毎年の入学式、卒業式に参列している。

ヒマワリ

小学校の花づくりボランティアは10人ほどで、参加者は4、5人だけの日もある。

校庭南の道を行きかう人が数十本のヒマワリの大輪の隊列を見て仲間に加わってくれればと、今春初めて道沿いにヒマワリの種をまいた。

だが茂った街路樹が日を遮り、花は校庭を向いて咲いた。仲間は肩を落とした。

9月中旬、休み時間に学童と刈り取ったヒマワリから黒い種の採取を始めた。

「おばあちゃんが種まきをして花を咲かせているので、この種が欲しい。」

メンバーの目が輝いた。

「そうなんや、ええよ」。その子の掌に多めの種をのせた。

帰宅後の祖母と彼女の姿が目に見えかんだ。

〔「花時計」2019年10月〕

* 花づくりを初めて今春で6年目。

メンバー5、6人でスタートし、PTA会員などが新たに加わる一方で、腰痛などで参加できなくなった人も出て、仲間の数は増えない。メンバー増員をめざしたヒマワリ作戦は、市道からは花の背中を見せることになって失敗に終わった。

しかし、種採取になって花壇の一角を占め子どもたちが世話をしている「鳥ケージ」の小鳥に餌として与えれば鳥たちも喜ぶとの声も出て、ヒマワリづくりチャレンジの手ごたえを感じている。

ホテイアオイの花

小学校の中庭には、花壇と鳥小屋のほかに小さな人工池がある。春には近年少なくなったメダカが泳ぎ、凍つく冬の朝には氷が張る。花づくりボランティアで訪れた10月初め、池一面にホテイアオイの花が咲いているではないか。うす紫の6枚の花びらが彩る美しさにしばらく

見入った。

「この池に以前から咲いていましたか」と先生に聞くと、「本校に勤務して数年になりますが、今年初めて咲いたので驚きました」と答えた。

ファンタジー広場と名付けられた中庭の池の可憐な花との出会いは、名称どおりのファンタジー世界への誘いのようでもあり、5年間の花づくりへの褒美のようにも思えた。

(2019年10月)

* ホテイアオイの花は8月ごろから咲いていたらしい。

夏休み明け以降の花づくりの際は花壇の花と雑草にだけ目を注いでいて、池を見ていなかったようだ。

周辺に視野を広げることができなくなっているように思えて、加齢を実感した。

「こんな時だから」

ふれまち協議会の小学校での花づくりと学童の下校見守りは7年目を迎えた。

小学生の卒業と入学を祝おうと、昨年12月に花壇に100個以上のチューリップの球根を植え、3月に2日間の除草と球根移植の作業を予定していたが、新型コロナウイルス感染症防止で臨時休校になった。

メンバーのリーダーが「こんな時だからこそ花壇にチューリップの花をインスタ映えするよ

う咲かせよう」と有志に協力を呼びかけ、先生の支援も得て1日だけ除草と花苗の移植作業を行った。

卒業式に間に合うか心配だが、入学式には咲いていよう。今から楽しみだ。

(2020年3月)

* 「子どもたちが通う私たちの小学校は花があふれている。それが当たり前だと思っていたが、PTA役員として他の小学校に出かけて地域の皆さんの日頃からの花づくりのおかげだと気づいた」。

これは、ふれまち協議会の役員会でのPTA役員の発言だ。「苦勞が報われた」と早速にメンバーに知らせた。

コロナ禍ではあるが、花づくりのほか、1月下旬には小学1年生に昔の遊びを教えた。その際に、飛ばして歓声があがった手作りの紙飛行機は児童館の学童保育の子どもたちに贈った。また、3月の地域防災訓練は新型コロナウイルス感染症防止のため中止したので、配布予定の手づくりの紙とんぼとシャボン玉キットは児童館の子どもたちにプレゼントした。

第Ⅱ部

「男性ができることは？」



ハーモニカ・グループ